

令和 6 年 5 月 15 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K04414

研究課題名（和文）仮設後の住まいにおけるコミュニティ再編と高齢者の孤立化防止・生活支援に関する研究

研究課題名（英文）Study on the prevention of social isolation of the elderly in the disaster-damaged area through reconstruction of community and community-based integrated care system

研究代表者

中島 美登子（Nakashima, Mitioko）

香川大学・創造工学部・准教授

研究者番号：30413868

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本発表では、東日本大震災の被災地である大船渡市における災害公営住宅の「住みやすさ」に着目し、高齢者が災害公営住宅をどのように評価しているのかを明らかにするとともに、災害公営住宅の高齢者の住みやすさの要因を探ることを目的とする。アンケート調査と聞き取り調査から得られたデータを分析し、1) 高齢者の約8割が災害公営住宅を住みやすいと評価し、約2割が住みにくいと評価していること、2) 住みやすさの条件は、居住者間の普段のコミュニケーションや相互扶助の有無と密接に関連していること、3) 高齢者が住みやすいと評価する災害公営住宅の多くは集会所を活用した様々なコミュニティ活動を有していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

被災地における高齢者の孤立化をめぐる研究は、東日本大震災の被災地における「変化」を適切に捉えきれない。1) 時間の経過とともに災害公営住宅の入居者が入れ替わり、コミュニティ自体が変容していること、2) 災害公営住宅と周辺地域住民との新たな交流や結びつきが生まれつつあること。災害公営住宅におけるコミュニティの変化や多様性・異種混交性に注目するとともに、そうしたコミュニティを災害公営住宅や防災集団移転地の内部において完結したものとしてとらえるのではなく、周辺地域社会との相互関係においてとらえなおすことで、被災地における高齢者支援の問題をより広範な地域包括ケアに接続していこうとする点に最大の特徴がある。

研究成果の概要（英文）：With focusing on the livability for the elderly of disaster public housings in Ofunato City, one of the 2011 Tohoku Earthquake, we found that 1) about 80% of the elderly evaluate disaster public housings as livable, about 20% of them not-livable, 2) conditions of the livability are closely related with an existence or a lack of ordinary communication and mutual support among residents, and 3) most of disaster public housings evaluated as livable by elderly residents have various community activities and the elderly actively participate in them.

研究分野：建築計画

キーワード：災害公営住宅 暮らしやすさ 高齢者 社会関係 生活環境 集会所

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

災害公営住宅における高齢者の「孤立化」や「孤独死」の問題をめぐる従来の研究においては、災害公営住宅における孤立化・孤独死の実態や、その対策としてのコミュニティの維持・形成や共同性の回復の必要性などが指摘されてきたが、入居者自身が災害公営住宅に対してどのように感じているのか、住まいの「暮らしやすさ」をどう評価しているのかという点については、ほとんど検討されてこなかった。しかしながら、前述のように災害公営住宅における高齢者の孤立や孤独死の問題を考えると、そこが高齢者にとって「暮らしやすい」住まいとなっているかどうか、そしてそれがどのような要因によるものなのかは、重要な問題である。

2. 研究の目的

本研究では、東日本大震災の被災地の一つである岩手県大船渡市の災害公営住宅を対象として、災害公営住宅の「暮らしやすさ」を高齡入居者がどのように評価しているかを明らかにし、その要因を探るとともに、そのような「暮らしやすさ」がどのようなきっかけで変化していったのかについて、特に災害公営住宅に併設された集会所の利用状況に着目することで、災害公営住宅における高齢者の「暮らしやすさ」を可能とするうえでの集会所の役割について検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究対象

大船渡市内には2020年11月時点で24団地の災害公営住宅が立地していたが、そのうち調査許可を得ることができた23団地を対象として調査を行なった。入居開始時期は2013年からであるが、全体の半数は2016年から入居している。集会所はほとんどの災害公営住宅で設置されているが、木造団地の一部に未設置のものがみられる。自治会に関しても大半の災害公営住宅で結成されている。

(2) 調査方法

アンケート調査では、入居者の属性や災害公営住宅での交流状況や住環境、集会所の利用の有無、自治会活動への参加状況などを尋ね、特に高齢者に対しては外出先や移動方法、趣味活動、交友関係の増減、交流状況などについて尋ねた。560世帯のうち382世帯に調査票を配布し、そのうち156世帯より回答を得た。全世帯数に対するアンケート回収率は27.9%であった。また、それぞれの災害公営住宅の76人にインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

4-1. 災害公営住宅における「暮らしやすさ」とその要因

(1) アンケート対象世帯の属性

最初に、156世帯の属性を概観する。図1は世帯類型を示したものだが、全体の6割近くを1人暮らしが占め、次いで夫婦のみの世帯が2割を占めており、2世代・3世代同居は3割程度にとどまる。さらに1人暮らし世帯91戸のうち90戸が高齢者世帯であり、夫婦世帯31戸のうち30戸が高齢者夫婦である。図2はアンケート回答者の年齢を示したものだが、8割近くを65歳以上の高齢者が占めており、全体に災害公営住宅入居者の高齢化・独居化の傾向が読み取れる。

(2) 災害公営住宅の「暮らしやすさ」

図3は「現在住まわれている公営住宅は暮らしやすいですか」という質問に対する回答を示したものである。全体としては8割以上が「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」と肯定的な評価を行なっているが、前期高齢者(65~74歳)において「少し暮らしにくい」「暮らしにくい」が22%を占めており、他の世代よりも10%ほど否定的な割合が高くなっている。

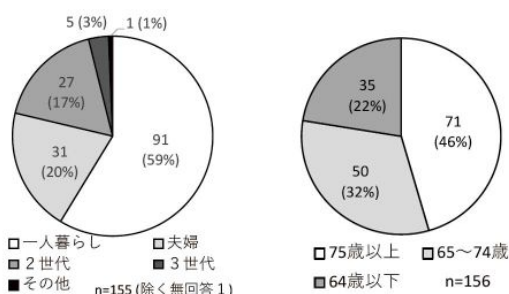


図1 アンケート調査対象世帯の世帯類型
図2 アンケート回答者の年齢構成

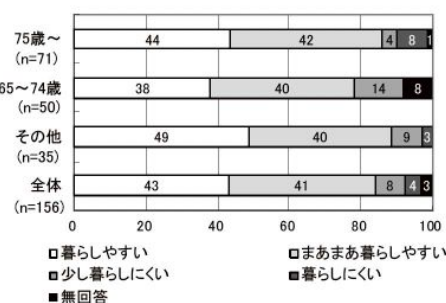


図3 災害公営住宅の「暮らしやすさ」

(3) 「暮らしやすさ」の理由

次に、「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」と回答した理由について尋ねた。その結果、図4に示されるように「近くに知り合いがいるから」「友人が近くにいるから」「元々住んでいた地域の人がいるから」「家族が近くにいるから」などの社会関係に起因する諸要因を「暮らしやすさ」の理由として回答した割合が全体の7割近くにのぼった。また、この割合は後期高齢者ほど大きく、64歳以下の「その他」になると若干少なくなる。一方、「交通の便が良いから」「近くに店があるから」「不便だと思わないから」などの生活環境に起因する諸要因を理由としてあげたのは高齢者で22～25%にとどまるが、64歳以下の「その他」では30%に達する。仕事や子育てに忙しい現役世代では生活環境の利便性を重視する傾向がみられるのに対し、高齢者世代ではむしろ日常生活において支えや頼りになる社会関係を重視して「暮らしやすさ」を評価していることがわかる。

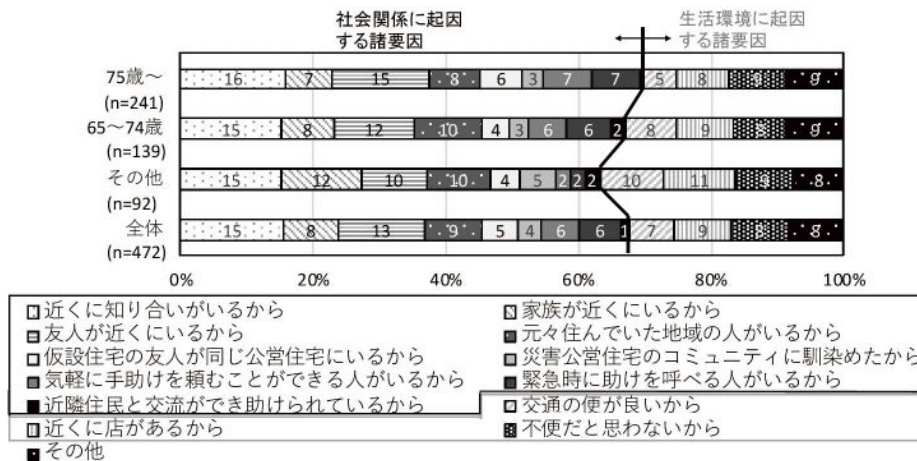
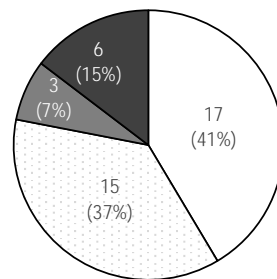


図4 災害公営住宅における「暮らしやすさ」の理由（複数回答）

(4) 「暮らしやすさ」の変化

次に、アンケート調査でインタビュー調査の了承が得られた76人に行なったインタビュー調査の結果に基づいて、「暮らしやすさ」の変化について検討する。災害公営住宅に入居してから現在までの3～5年間に災害公営住宅での「暮らしやすさ」がどのように変化したのか、回答が得られた41人に関してみると（図5）、全体の78%が「ずっと暮らしやすい」「暮らしやすくなった」と肯定的評価を示すのに対し、22%は「ずっと暮らしにくい」「暮らしにくくなった」という否定的評価を示している。また、以前と比べて「暮らしやすくなった」が37%であるのに対し、「暮らしにくくなった」は15%であり、良い方向に変化している人の方が大きな割合を示している点は、全体として災害公営住宅の「暮らしやすさ」が改善されてきていることを示していると言える。「暮らしやすさ」の理由として「近隣住民と交流が生まれ、助け合いができるようになった」「住民同士で話し合いができていく」などをあげている。一方、入居から4年以上経過した時点でも2割弱の方が暮らしにくいと感じており、その理由として「近くに知り合いがいない」「家族が近くにいらない」「友人が近くにいらない」などの理由とともに、「近隣住民と交流がなく馴染めない」「住民同士で話し合うことができない」などをあげている。また、「交通の便が悪い」「近くに店がない」などとともに、「高齢になっていくると不便なことが増えた」という声が聞かれた。



ずっと暮らしやすい
 暮らしやすくなった
 ずっと暮らしにくい
 暮らしにくくなった

図5 災害公営住宅における「暮らしやすさ」の変化

(5) 「暮らしやすさ」の変化の具体的事例

(1) 「暮らしやすさ」の変化の類型と要因

インタビュー調査をおこなった76人の入居者のうち「暮らしやすさ」に関する毎年のデータを継続的に得ることができた41人について、「暮らしやすさ」の変化のタイプと、変化の主要因を明らかにした。その結果、「暮らしやすさ」の変化は、災害公営住宅への入居期間中に「暮らしやすさ」が向上した（以下、「暮らしやすくなった」）場合（15人）と、入居期間中に「暮らしやすさ」が低下した（以下、「暮らしにくくなった」）場合（8人）、入居期間中に「暮らしやすさ」の向上と低下の両方がみられた（以下、「複合型」）場合（8人）、全入居期間を通じて「暮らしやすさ」の変化が見られなかった（以下、「変化なし」）場合（10人）に分けられた。

さらに、これら 41 人のインタビュー回答者の「暮らしやすさ」の変化について、それぞれの変化のきっかけや原因となったと思われる事項をあげてもらい、「暮らしやすさ」の変化の要因について検討した。その結果、「暮らしやすくなった」要因としては集会所の利用や、集会所でおこなわれるお茶っこ（お茶会）やイベント、体操教室等への参加をあげる人が多く見られた（15 人中 11 人）。一方、「暮らしにくくなった」要因としては、加齢や病気に伴う身体の不調により外出や集会所に行くことが難しくなったこと（8 人中 4 人）、公営住宅の自治会や住民組織が十分に機能しておらず集会所が使いにくいこと（8 人中 4 人）などがあげられている。

また、「暮らしにくくなった」と「複合型」において「暮らしやすさ」が低下してくる事例において特徴的にみられる変化の要因として、集会所の利用者が固定化してしまい、他の人が利用しにくい雰囲気があるというものもあげられている。この点は、入居者間の人間関係も絡み合ってくるので複雑な問題であるが、集会所利用のルールが整備されておらず、入居者の自発的な利用にまかされている場合にしばしば見られるようである。

(2) 「暮らしやすくなった」事例

図 6 は災害公営住宅 E に入居する a さんの「暮らしやすさ」がどのように変化したのかを、居住年数の経過とともに示したものである。a さんが災害公営住宅に入居した頃は、知人は誰もおらず、入居者同士の交流も得られなかった。集会所は災害公営住宅内に併設されていたが、ほとんど利用されていなかった。しかし、入居 2 年目には災害公営住宅内で世話役の住民（自治会長）があらわれ、この人の働きかけにより集会所で頻繁に住民間の話し合いが行われるようになり、a さんも集会所に出かけるようになった。3 年目には a さんは頻繁に集会所を訪れるようになり、入居者の集まりやイベントにも積極的に参加して、住民同士の交流を深めていった。この a さんのケースでは、当初は災害公営住宅内に知人も親戚もおらず孤独だったが、災害公営住宅内での自治会活動の活発化と集会所の積極的な利用により、次第に住民間の交流が生まれていった様子が見て取れる。このように、入居前の人間関係やコミュニティを継続していなくても、災害公営住宅内での取り組みにより、暮らしやすい環境を作り出すことが可能であることが示されている。

(3) 「暮らしにくくなった」事例

一方、災害公営住宅 P に入居する b さんの例はこれとは対照的である（図 7）。災害公営住宅に入居した当初、b さんは仮設住宅時代の知人や友人が多くいる仮設住宅の集会所に頻繁に出かけて交流していたが、2 年目になると仮設住宅は閉鎖され、集会所も使えなくなってしまった。一方、災害公営住宅の集会所は維持費の支払いや管理の問題から住民間の合意が得られずに使われないままであったため、b さんは集まる場所を失ってしまい、3 年目以降もその状態が続いた結果、多くの入居者が住民間で交流する機会を持てないままとなっている。この例に示されるように、たとえ災害公営住宅内に集会所があっても、それが有効に利用されていなければ、交流の拠点とはならず、住民にとっては暮らしにくいままの状況が続いてしまうことがわかる。

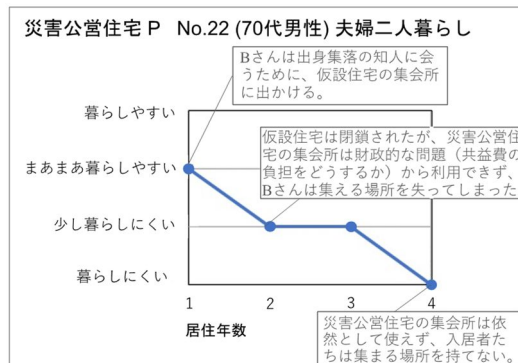
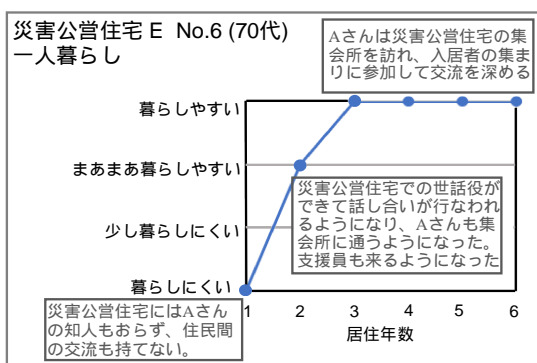


図 6 「暮らしやすくなった」事例：a さんの場合

図 67 「暮らしにくくなった」事例：b さんの場合

(4) 「暮らしやすくなった」場合と「暮らしにくくなった」場合の複合的な事例

災害公営住宅の入居者の中には、入居後に「暮らしやすくなった」場合と「暮らしにくくなった」場合の両方が現れてくる複合的な変化を示す事例も見られる。災害公営住宅 I に入居する c さんの事例（図 8）は、集会所の利用者が固定化してしまい、それ以外の人々が集会所を利用しにくくなったケースである。災害公営住宅 I では入居開始 2 年目から集会所の利用が始まったが、3 年目には外部の支援団体との豊富なつながりをもつ人物を中心にして、特定の人たちが頻繁に集会所を利用するようになり、そこに属さない c さんは集会所を利用しにくいと感じるようになり

なった。しかしその後、集会所の利用方法について住民間で話し合いがおこなわれ、集会所利用のルールが定まったことで、cさんは集会所に行きやすくなったと感じるようになった。このように、集会所の利用をめぐるにはある程度住民間の調整が必要になる場合もあることがわかる。

(5) 「変化なし」の事例

最後に、「暮らしやすさ」に関して大きな変化が見られなかった事例として、災害公営住宅Vに入居するdさんについてみる(図9)。dさんは入居後の4年間を通じて一貫して「まあまあ暮らしやすい」と回答していたが、集会所の利用については必ずしも満足してはいなかった。dさんは公営住宅に入居した当初、近くに店もあり交通の便も良いことから「まあまあ暮らしやすい」と感じていたが、公営住宅内に知り合いはほとんどいなかった。2年目には集会所で会議が行われるようになり、公営住宅の住民とは挨拶ができる関係になった。しかし3年目になっても4年目になっても集会所は会議の時しか使われておらず、入居者が日常的に気軽に集まれる場所とはなっていない。そのため、dさんは集会所でイベントやお茶っごができればいいと感じている。このように集会所が使われていても、必ずしも入居者の日常的な交流の場とはなっていない場合も見受けられる。

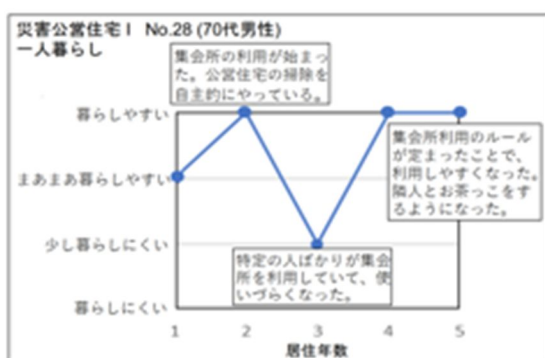


図8 「複合型」の事例：cさんの場合

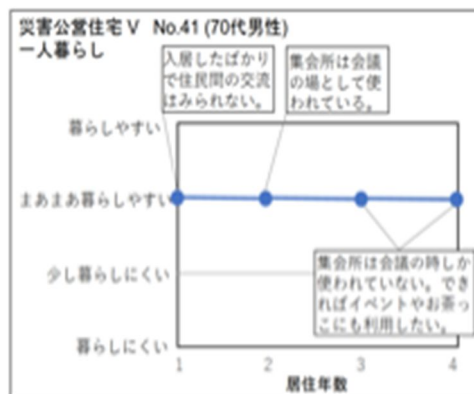


図9 「変化なし」の事例：dさんの場合

4-3 . おわりに

本研究では、以下の諸点が明らかとなった。

1) 災害公営住宅における「暮らしやすさ」の理由については、「近くに知り合いがいるから」「友人が近くにいるから」「元々住んでいた地域の人がいるから」「家族が近くにいるから」などの社会関係に起因する諸要因が全体の7割近くにのぼり、この割合は後期高齢者ほど大きくなることがわかった。一方、「交通の便が良いから」「近くに店があるから」「不便だと思わないから」などの生活環境に起因する諸要因は、64歳以下の「その他」で比較的多く挙げられた。

2) 「暮らしやすくなった」理由として特徴的な点は、「近隣住民と交流が生まれ、助け合いができるようになった」や「住民同士で話し合いができていく」という点であり、このことは入居当初には得られなかった社会関係が、時間の経過とともに新たに近隣住民や災害公営住宅の入居者同士の間で生み出されてきていることを示している。と考えられる。一方、「暮らしにくくなった」としては、「近隣住民と交流がなく馴染めない」「住民同士で話し合うことができない」などの理由が上がっており、入居から3～5年が過ぎてもなかなか社会関係が構築できていない様子がうかがえる。

3) 「暮らしやすさ」の変化の具体的事例の検討を通じて、「暮らしやすさ」が増した背景の1つとして災害公営住宅の集会所の利用を通じた入居者同士の交流の活発化という点が明らかとなった。一方、たとえ災害公営住宅内に集会所があっても、それが有効に利用されていなければ、交流の拠点とはなりえず、住民にとっては暮らしにくいままの状況が続いてしまうことも明らかとなった。

以上のように、災害公営住宅における「暮らしやすさ」は主に社会関係に起因する諸要因に大きく影響されているとともに、そうした「暮らしやすさ」が時間の経過とともに変化する可能性も示された。そしてそうした「暮らしやすさ」の変化の要因の1つとして、災害公営住宅における入居者同士の交流拠点としての集会所の利用が重要であることが明らかとなった。将来的には介護予防のみならず、医療施設や福祉施設との連携も視野に入れながら、医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み作りが求められると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 黄 蓉; 中島美登子; 雨河初憲; 笠原幸大; 鶴本祐太; 佐藤優実; 藤林風暖; 植村友哉; 仲井康貴; 西川奈美穂; 横川拓海	4. 巻 E-1
2. 論文標題 大船渡市の防災集団移転地におけるコロナ後の地域包括ケアの実態と高齢者支援に関する研究-コミュニティの状態と支援の違いによる防災集団移転地に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その6-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 155-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子 黄蓉 雨河初憲 笠原幸大 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 仲井康貴 西川奈美穂 横川拓海	4. 巻 E-1
2. 論文標題 倉敷市真備町の災害公営住宅における1年経過後のコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 153-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雨河初憲 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂	4. 巻 E-1
2. 論文標題 高台住宅に住む高齢者の暮らしやすさの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その1-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 143-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原幸大 中島美登子 黄 蓉 雨河初憲 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂	4. 巻 E-1
2. 論文標題 高台住宅に住む高齢者の集会所に対する要望-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その2-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 145-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴本祐太 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂	4. 巻 E-1
2. 論文標題 高台住宅における高齢者の自治会活動に関する研究-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その3-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 147-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤優実 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 鶴本祐太 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂	4. 巻 E-1
2. 論文標題 2つの高台住宅における地域包括ケアの実態把握-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その1-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 137-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤林風暖 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 鶴本祐太 佐藤優実 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂	4. 巻 E-1
2. 論文標題 2つの高台住宅における高齢者の支援員への要望-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その2-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 139-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子	4. 巻 44
2. 論文標題 真備町の災害公営住宅における入居者の生活実態に関する研究 - 集会所の利用と交流状況に着目して -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 地域安全学会論文集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子, 川野桃太, 塚本麻見, ゲンティ ジュウフォン, 黄 蓉, 植村友哉, 仲井康貴, 西川奈美穂, 横川拓海	4. 巻 E-1
2. 論文標題 倉敷市真備町の災害公営住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 447-448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植村友哉, 中島美登子, 横川拓海, 仲井康貴, 西川奈美穂, 黄 蓉, 川野桃太, 塚本麻見, ゲンティ ジュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 高台住宅に住む高齢者の暮らしやすさの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究その1-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 451-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横川拓海, 中島美登子, 植村友哉, 仲井康貴, 西川奈美穂, 黄 蓉, 川野桃太, 塚本麻見, ゲンティ ジュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 高台住宅に住む高齢者の集会所に対する要望-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究その2-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 453-454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川奈美穂, 中島美登子, 仲井康貴, 植村友哉, 横川拓海, 黄 蓉, 川野桃太, 塚本麻見, ゲンティ ジュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 2つの高台住宅における地域包括ケアの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その1-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 455-456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲井康貴, 中島美登子, 西川奈美穂, 植村友哉, 横川拓海, 黄蓉, 川野桃太, 塚本麻見, グェンティ ジュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 2つの高台住宅における高齢者の支援員への要望-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その2-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 457-458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黄蓉, 中島美登子, 川野桃太, 塚本麻見, グェンティ ジュウフォン, 植村友哉, 仲井康貴, 西川奈美穂, 横川拓海	4. 巻 E-1
2. 論文標題 大船渡市の防災集団移転地における地域包括ケアの実態と高齢者支援に関する研究-コミュニティの状態と支援の違いによる防災集団移転地に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その5-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 449-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子	4. 巻 17
2. 論文標題 倉敷市真備町の仮設住宅における入居実態と高齢者が直面する諸問題-復興後期の仮設住宅における支援のあり方に関する考察-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住宅系研究報告会論文集 (一般社団法人日本建築学会)	6. 最初と最後の頁 217-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子	4. 巻 115
2. 論文標題 特集: 「生活再建を支える災害公営住宅」「高齢者にとっての災害公営住宅の暮らしやすさ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住宅会議 (日本住宅会議)	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子, 繪本尚樹, 白井愛乃, 大西冬恭, 千葉誠也, 川野桃太, 塚本麻見, ゲンティシュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 倉敷市真備町の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 771-772
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川野桃太, 中島美登子, 繪本尚樹, 白井愛乃, 千葉誠也, 大西冬恭, 塚本麻見, ゲンティシュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 大船渡市の2つの高台住宅における高齢者の暮らしやすさとその理由に関する研究-船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その1-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 773-774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本麻見, 中島美登子, 繪本尚樹, 白井愛乃, 千葉誠也, 大西冬恭, 川野桃太, ゲンティシュウフォン	4. 巻 E-1
2. 論文標題 大船渡市の2つの高台住宅における集まる場所に対する住民の要望-船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その2-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 775-776
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ゲンティシュウフォン, 中島美登子, 繪本尚樹, 白井愛乃, 千葉誠也, 大西冬恭, 川野桃太, 塚本麻見	4. 巻 E-1
2. 論文標題 大船渡市の2つの高台住宅における高齢者のための地域包括ケアの状況-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その3-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6. 最初と最後の頁 777-778
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子	4. 巻 14
2. 論文標題 大船渡市の防災集団移転地における集会所の役割と課題に関する研究 - 高齢者の交流状況と意識に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域安全学会論文集（電子ジャーナル論文）	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島美登子	4. 巻 16
2. 論文標題 高齢者にとっての災害公営住宅の「暮らしやすさ」に関する研究 - 岩手県大船渡市の災害公営住宅を事例として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 住宅系研究報告会論文集（一般社団法人日本建築学会）	6. 最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 黄 蓉; 中島美登子; 雨河初恵; 笠原幸大; 鶴本祐太; 佐藤優実; 藤林風暖; 植村友哉; 仲井康貴; 西川奈美穂; 横川拓海
2. 発表標題 大船渡市の防災集団移転地におけるコロナ後の地域包括ケアの実態と高齢者支援に関する研究-コミュニティの状態と支援の違いによる防災集団移転地に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その6-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中島美登子 黄蓉 雨河初恵 笠原幸大 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 仲井康貴 西川奈美穂 横川拓海
2. 発表標題 倉敷市真備町の災害公営住宅における1年経過後のコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 雨河初憲 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂
2. 発表標題 高台住宅に住む高齢者の暮らしやすさの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その1-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠原幸大 中島美登子 黄 蓉 雨河初憲 鶴本祐太 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂
2. 発表標題 高台住宅に住む高齢者の集会所に対する要望-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その2-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鶴本祐太 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 佐藤優実 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂
2. 発表標題 高台住宅における高齢者の自治会活動に関する研究-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用状況と交流関係に関する研究その3-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤優実 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 鶴本祐太 藤林風暖 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂
2. 発表標題 2つの高台住宅における地域包括ケアの実態把握-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その1-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤林風暖 中島美登子 黄 蓉 笠原幸大 雨河初憲 鶴本祐太 佐藤優実 植村友哉 横川拓海 仲井康貴 西川奈美穂
2. 発表標題 2つの高台住宅における高齢者の支援員への要望-大船渡市の2つの高台住宅におけるコロナ後の集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その2-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中島美登子 , 川野桃太 , 塚本麻見 , ゲンティ ジュウフォン , 黄 蓉 , 植村友哉 , 仲井康貴 , 西川奈美穂 , 横川拓海
2. 発表標題 倉敷市真備町の災害公営住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 植村友哉 , 中島美登子 , 横川拓海 , 仲井康貴 , 西川奈美穂 , 黄 蓉 , 川野桃太 , 塚本麻見 , ゲンティ ジュウフォン
2. 発表標題 高台住宅に住む高齢者の暮らしやすさの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究その1-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横川拓海 , 中島美登子 , 植村友哉 , 仲井康貴 , 西川奈美穂 , 黄 蓉 , 川野桃太 , 塚本麻見 , ゲンティ ジュウフォン
2. 発表標題 高台住宅に住む高齢者の集会所に対する要望-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究その2-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西川奈美穂 , 中島美登子 , 仲井康貴 , 植村友哉 , 横川拓海 , 黄 蓉 , 川野桃太 , 塚本麻見 , グエンティ ジュウフォン
2. 発表標題 2つの高台住宅における地域包括ケアの実態調査-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その1-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 仲井康貴 , 中島美登子 , 西川奈美穂 , 植村友哉 , 横川拓海 , 黄 蓉 , 川野桃太 , 塚本麻見 , グエンティ ジュウフォン
2. 発表標題 2つの高台住宅における高齢者の支援員への要望-大船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用と地域包括ケアに関する研究その2-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黄 蓉 , 中島美登子 , 川野桃太 , 塚本麻見 , グエンティ ジュウフォン , 植村友哉 , 仲井康貴 , 西川奈美穂 , 横川拓海
2. 発表標題 大船渡市の防災集団移転地における地域包括ケアの実態と高齢者支援に関する研究-コミュニティの状態と支援の違いによる防災集団移転地に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その5-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島美登子
2. 発表標題 倉敷市真備町の仮設住宅における入居実態と高齢者が直面する諸問題-復興後期の仮設住宅における支援のあり方に関する考察-
3. 学会等名 住宅系研究報告会 (一般社団法人日本建築学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mitoko Nakashima
2. 発表標題 Living conditions of the elderly in post-disaster temporary housings: two cases of disaster in Japan
3. 学会等名 The 27th Virtual Conference of Intrnational Association of People-Environment Studies (IAPS),Lisbon, Portugal,2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島美登子,繪本尚樹,白井愛乃,大西冬恭,千葉誠也,川野桃太,塚本麻見,ゲンティシユウフォン
2. 発表標題 倉敷市真備町の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活に与える影響に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野桃太,中島美登子,繪本尚樹,白井愛乃,千葉誠也,大西冬恭,塚本麻見,ゲンティシユウフォン
2. 発表標題 大船渡市の2つの高台住宅における齢者の暮らしやすさとその理由に関する研究-船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その1-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本麻見,中島美登子,繪本尚樹,白井愛乃,千葉誠也,大西冬恭,川野桃太,ゲンティシユウフォン
2. 発表標題 大船渡市の2つの高台住宅における集まる場所に対する住民の要望-船渡市の2つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その2-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 グエンティシュウフォン, 中島美登子, 繪本尚樹, 白井愛乃, 千葉誠也, 大西冬恭, 川野桃太, 塚本麻見
2. 発表標題 大船渡市の 2 つの高台住宅における高齢者のための地域包括ケアの状況-大船渡市の 2 つの高台住宅における集会所の利用状況と交流関係に関する研究 その3-
3. 学会等名 日本建築学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島美登子
2. 発表標題 高齢者にとっての災害公営住宅の「暮らしやすさ」に関する研究 - 岩手県大船渡市の災害公営住宅を事例として -
3. 学会等名 住宅系研究報告会（一般社団法人日本建築学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitoko Nakashima
2. 発表標題 Transition of Livability for the Elderly of Disaster Housings in Ofunato City, Japan
3. 学会等名 The 52th Virtual Conference of Environmental Design Research Association in Detroit. U.S.A. May (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------